

# 発電所だより

# 1月号

平成25年1月発行 東北電力株式会社女川原子力発電所総務部広報グループ 女川町塚浜字前田1 電話0225-53-6111 原子力の情報をホームページで公開しています。 <http://www.tohoku-epco.co.jp/>

## 《地域の皆さまから信頼いただける発電所を目指してまいります》

女川原子力発電所では、現在、定期検査を実施しており、設備点検、復旧作業に加え、東京電力福島第一原子力発電所の事故を踏まえた津波・地震に対するさらなる安全対策を進めています。

『安全はすべてに優先する』との考えのもと、地域の皆さまから信頼いただける発電所を目指し、発電所員一丸となって取り組んでまいりますので、本年もよろしくお願いいたします。



## 《「クリスマスドリーム」を開催しました》

12月15日、16日に石巻市の牡鹿中学校、女川町の女川第二小学校を会場に「第19回 東北電力クリスマスドリーム」を開催し、両会場あわせ約130人の子どもたちが出演しました。

牡鹿中学校では、同校生徒による合唱、寄磯小学校「寄磯ソーラン」、大原小学校「獅子ふり」、鮎川小学校「牡鹿銀鱗太鼓」等、また、女川第二小学校では、町内の子どもたちによるオリジナルミュージカル「喜びの鐘の音」が披露されました。

子どもたちが一生懸命練習した成果に会場からは惜しみない拍手が贈られました。



合唱



喜びの鐘の音



寄磯ソーラン



牡鹿銀鱗太鼓



獅子ふり

## 女川原子力PRセンターからのお知らせ

### 《図画コンクール作品展を開催します》

1月19日から27日まで、イオンモール石巻（石巻市蛇田）専門店街1階「太陽の広場」で、「第11回 東北電力図画コンクール」の一次審査通過作品200点を展示します。

ぜひこの機会に、子どもたちが一生懸命描いた想像力あふれる“海の生きものたち”をお楽しみください。

#### 最優秀賞



「深海の幸せ色のホタルイカ」  
北村小学校 5年  
井上 諒哉さん

#### 優秀賞



「うみのなかのおしゃれさん」  
女川第一保育所  
岩井 さくらさん

#### 優秀賞



「植物を育てる魚たち」  
大谷地小学校 1年  
三浦 大知さん

#### 優秀賞



「みい〜つけた!」  
大街道小学校 3年  
小泉 理桜さん

#### 優秀賞



「海のなかま達の復興祭」  
大街道小学校 4年  
浅野 ひまりさん

#### 優秀賞



「ヤドカリの旅館はおおいそがし」  
飯野川第一小学校 4年  
木村 一意さん

#### 優秀賞



「七福海神」  
釜小学校 5年  
小林 麗朱さん

#### 優秀賞



「幸せの博物館」  
小野小学校 6年  
大友 みのりさん

## 《女川原子力発電所の安全対策について（第4回）－津波浸水への対応強化－》

東日本大震災時、女川原子力発電所には約13メートルの津波が押し寄せましたが、敷地の高さ（13.8m<sup>\*</sup>）を乗り越えて敷地内に浸水することはありませんでした。

しかしながら、津波浸水への対応をさらに強化するため、発電所の敷地海側前面に高さ約3mの『防潮堤』を約600mにわたって設置しました。これにより防潮堤頂部の海面からの高さは約17mになりました。

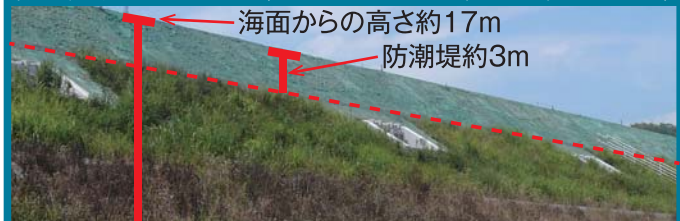
また、万一、津波が敷地内まで及んだ際にも、非常用海水ポンプ施設（原子炉を冷却するために必要な施設）への浸水を防ぐために、同施設を取り囲むように高さ約2mの『防潮壁』を設置しました。さらに、建屋への浸水を防止するため『建屋扉の浸水対策』も実施しております。今後も引き続き、さらなる対策を進めてまいります。

<sup>\*</sup>敷地の高さ13.8mは、地震後の地盤沈下量（-1m）を考慮した値。

### 津波浸水への対応強化

#### 震災後の対策

#### 防潮堤の設置（海面からの高さ約17m）



#### 防潮壁の設置



#### 建屋扉の浸水対策の実施



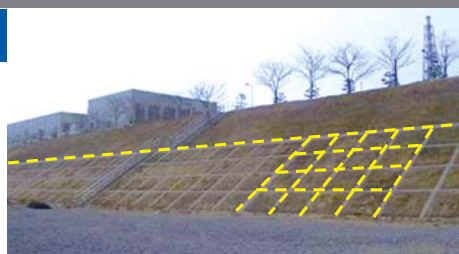
建屋扉へのゴムシールの取付、建屋貫通部への防水性シール材の充填などにより防水性を向上させています。

#### 震災前の対策

1号機建設当初（昭和43年～）、『敷地の高さをもって津波対策とする』こととし、学識経験者を含む社内委員会で、過去の津波を検証し、専門的な意見、歴史的教訓等を踏まえ、敷地の高さを『14.8m』に決定。

#### 敷地法面の強化

2号機増設時に、最新の知見を反映し、津波の想定高さを見直し、これに伴い、9.7mの高さまでコンクリートによる法面防護工（破線例示）を設置しました。



#### 非常用海水ポンプ施設のピット化

主要な建屋と同じ敷地の高さ（14.8m）から掘り下げて設置する独自の設計で、非常用海水ポンプを津波から守ります。



## 《「こんにちは訪問」を実施しました》

女川原子力発電所では、所員が地域の皆さまのお宅に伺い、発電所に関する情報をお知らせしながら、ご意見をお聴きする対話活動「こんにちは訪問」を実施しました。

22回目となった今回は、12月17日から26日にかけて、女川町と石巻市牡鹿半島部の約4,400戸を訪問し、発電所で進めている地震・津波に対する安全対策等についてお知らせしました。

対話活動の中で皆さまからいただいた貴重なご意見は、今後の発電所運営の参考とさせていただきます。

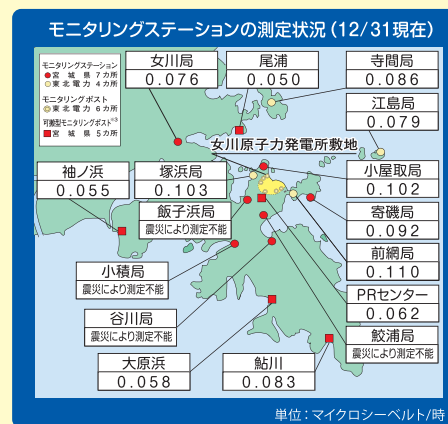


地域の皆さまからは「安全・安心につながるよう情報公開に努めてほしい」「福島第一原子力発電所と同じことが起きないように安全対策を徹底してほしい」などのご意見をいただきました。

## 《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト<sup>\*</sup>1やモニタリングステーション<sup>\*\*</sup>2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社のホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い、震災前よりも若干高い値を示していますが、最大で0.078マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



年	日	測定値
平成23年	3月11日	0.027～0.064
	3月13日	1.8～21 <sup>※4</sup>
平成24年	7月1日	0.059～0.086
	8月1日	0.060～0.085
	9月1日	0.060～0.084
	10月1日	0.057～0.088
	11月1日	0.057～0.081
	12月1日	0.057～0.078
	12月31日	0.056～0.078

単位：マイクロシーベルト/時

- ※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日（平成23年3月13日）の値、至近6カ月の値を掲載しています。
- ※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。
- ※3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。
- ※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。